

をかまへて、鳥のこうまん間に、つなをつりあげさせて、ふとこやすのかひをとらせ給なんよき事なるべきと申、中納言の給ふやういとよき事なりとて、あな、ひをこぼし、人みなかへりまうべきとのたまふ、くらつまろ申やう、つばくらめ子うまむとする時は、ををさげて七度めぐりてなんうみおとすめる、扱七度めぐらんをり、びきあげてそのおりこやすの貝はとらせたまへと申、中納言喜て、よろづの人にもえらせ給はで、みそかにつかさにいまして、をのこどもの中にまじりて、夜をひるになしてとらしめ給ふ、くらつまろかく申をいといたく喜ての給ふ、こゝにつかはる、人にもなきに、ねがひをかなふることのうれしさとの給ひて、御ぞぬぎてかづけ給つ、さらによさり此司にまうでことの給ひてつかはしつ日暮ぬれば、かのつかさにおはして見給ふに、誠につばくらめ巣つくれり、くらつまろ申やう、おうけてめぐるに、あらこに人をのぼせてつりあげさせて、つばくらめの巣に手をさし入させて、さぐるに物もなしと申に、中納言あしくさぐればなきなりと腹立て、たればかりおぼふらんにとて、われのぼりてさぐらむとの給ひて籠に入つられのぼりて、うかゞひ給へるに、つばくらめ尾をさげていたくめぐりけるにはせて、手をさゝげてさぐり給ふに、ひらめる物さはりけるとき、我物にぎりたり、今はおろしてよおきなしえたりとの給ひて、あつまりてとくおろさんとて、綱を引すぐして、つなたゆるときに、やしまのかなへのうへに、のけざまにおちたまへり、○申からうじて御心ちはいかゞおぼさる、ととへば、息の下にて物はすこしおぼれど、こしなむうごかれぬ、されどこやすのかひをふとにぎりもたれば、嬉敷おぼゆれ、まづえそくさしてこゝのかひかほ見むと、御ぐしもたげ御手をひろげ給へるに、つばくらめのまろおける、ふるくそをにぎり給へるなりけり、

〔拾遺和歌集物名〕つばくらめ

すけみ